市民・文化観光・消防委員会資料
令和元年　12月　17日
消　　　防　　　局

ラグビーワールドカップ 2019™消防特別警備の実施結果について

1　事前対策

(1) 各種計画等の策定

大会組織委員会や市危機管理室等と連携した「警備計画」等を策定し、関係機関と一体となった取組を実施

(2) 資機材整備の実施

テロ災害対策等の対応を強化するため、止血帯や有毒ガスを測定する検知器などを充実

(3) 関連施設の安全対策

大会関連施設のほか、大規模集客施設や宿泊施設、仮設発電設備等の立入検査などを実施

(4) 関係機関との連携強化

テロ災害対策訓練等を通じ関係機関との連携を強化

テロ対策資機材　取扱訓練

仮設発電設備の事前確認

横浜市テロ対策訓練（８月実施）

2　消防特別警備の実施状況

(1) 横浜国際総合競技場

試合開催日は、消防特別警備本部体制として、消防局及び 18 消防署に警備本部等を設置

また、競技場内に現地本部を設置し、消防隊等を配置するとともに、関係機関（組織委員会、警察、医療機関等）と連携した情報収集、迅速な災害出場体制を確立

競技場内の警備状況

消防職員による巡回状況

消防隊等の配置状況

消防団による巡回状況

（参考）競技場における警備状況

開催日	9月21日(土)	9月22日(日)	10月12日(土)	10月13日(日)	10月26日(土)	10月27日(日)	11月2日(土)
(参考) 入場者数	63,649人	63,731人	中止	67,666人	68,843人	67,750人	70,103人
現地本部 要員等 (各日)	【消防職員】　救助隊や救急隊など計８隊、約 60 名　（競技場内の警備を実施） 【消防団員】　消防団積載車 計３隊、約 20 名　（競技場周辺の警備を実施） （決勝戦時　消防団積載車 計７隊、約 50 名）						

（裏面あり）

(2) ファンゾーン（西区　臨港パーク）

ファンゾーン開催日に管轄消防署の消防隊による定期的な巡回を実施

消防職員による巡回状況

ファンゾーンの状況

ファンゾーンの状況

（参考）ファンゾーン開催状況

開催日数　　13 日　※10 月 12 日（土）及び 10 月 13 日（日）は台風により中止

最高入場者数　17,600 人　（11 月２日（土）　決勝戦時 ）

3　災害等の発生状況（競技場及び周辺）

(1) 災害事案

火災件数　１件

決勝戦オープニングセレモニーの際に、特殊効果演出装置により噴出された炎がフィールド上に落ち、人工芝が若干焼損したもの

組織委員会スタッフにより、水バケツ等で消火

特殊効果演出の状況

(2) 救急事案

出場件数　16 件（競技場内 10 件、競技場周辺６件）

うち８件が外国人の救急事案

（参考）主な内容

・心肺停止事案（※競技場内の現地医療スタッフ等と連携した活動により、自己心拍再開）

・急病、転倒などによる怪我 など

救急活動時の状況

救急活動時の状況

消防隊も救急活動支援隊として出場